

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 北森 頌規
所属 (School) 工学域 電気電子系学類
学年 (Grade) 2 年

留学先 (Name of overseas institution)
Institut de Touraine
留学期間 (study abroad period)
2019/8/24~2019/8/17

記入日 (Date) 2019/9/29

留学レポート Study Abroad Report

僕はフランスのトゥールという街にある、トゥレーヌ語学学院というフランス語の語学学校に 3 週間通うプログラムに参加しました。僕は小学生の時に見ていた「のだめカンタービレ」というドラマの影響でフランスに憧れを持ち、いつかフランス人になりたいという夢がありました。それでこの機会にフランス人になる体験をしてみようと思ったのがきっかけです。

・授業

クラスはレベル別になっていました。僕のクラスは 12 人程度で、偶然日本人がその内 7 人も占めていて驚きましたが、他に欧州諸国、アメリカ、シリア、サウジアラビアなどから集まったメンバーでした。日本人がいると心強いというのがありますが、つい休み時間になった時などに日本語で話してしまっていたのが少しもったいなかったなと思いました。授業では学生がどんどん話していても先生が絶対フォローを入れてくれるし、かなり発言しやすい環境だったので授業中はできるだけ発言していくように心がけていました。

グループワークやペアワークをすることが多く、ちょっとしたダイアログを作って発表する機会もあるので、普段あまり発言しない人も話す機会になり積極的に話さない人でも発言する機会が設けられていてよかったと思います。



・ホームステイ先での生活



高校生のときに 1 度マレーシアでホームステイをしたことはあったので、基本的にはあまり緊張することなく過ごしていました。1 週間目はまだ自分の話したいことをすぐにフランス語にできなくて、ホームステイ先のマダムからの質問に何とか答えるのが精一杯でしたが、2 週間目ぐらいからだんだん色々なことについて話せるようになり、3 週間目(最終週)ぐらいになるとマダムに進歩したねとよく褒められるようになりました。

夕食を食べた後は 8 時のニュースを見るようになり、テレビのフランス語はほんの少ししかわからないのですが、横で簡単なフランス語で説明してもらいながら 2 割ぐらい分かればいいのかという気持ちで見っていました。

1 週間目の途中でお腹を壊したときは、夜にもかかわらず知り合いの医者の方に連絡を取ってくれたり、しばらくご飯のときお米を出してくれたり、学校から帰るとベッドメイキングされていたりとすごく優しいマダムに恵まれました。

・フランスでの日常生活

学校は9時からなのですが、フランスでは9時に教室の前に行ってもまだ教室の鍵が開いていないことがありました。5分程度で先生は来るのですが電車に乗った時の遅延を体験しても恐らく20分遅れ位までは許容範囲内になっているような雰囲気を感じました。日本では1分でも遅れたら(下手をすると5分前に来ていないとか)厳しく言われることが日常なので最初はフランスらしいなと思うとともに、日本は厳しすぎるのではないのかと思うようにもなりました。

フランスでは街中にパン屋さんとケーキ屋さんが併設されている店があり、美味しいので授業の休憩時間にエクレアなどを買いに行き、毎時間食べていました。いつの間にか先生に「Monsieur Gourmand」と呼ばれるようになっていました(笑)

フランスでフランスパンを持って歩くというのをやってみたかったのですが、ホームステイ先ではマダムが買ってあるのでバケットを買っても仕方がないのでサンドイッチを持って歩くことで我慢していました。それでもそこそこフランス人になった気分になったので満足です。因みに日本でやってみたのですが、すれ違う周りの人みんなに変な目で見られました。

午後の授業の後は図書室で勉強をしたり、街をぶらぶら散歩したり、自転車でちょっと遠出したりして過ごしていました。週に1~2回は図書室で勉強していました。図書室ではフランス語の本や、雑誌新聞辞書があるので基本は自分の教材で勉強していましたが、簡単な本を読むことも数回ありました。街を散歩していた日は一日に気づくと結構な距離を歩いていたことも結構ありました。街並みがどこを歩いても美しいので歩いていても退屈せずきれいな写真の中を歩いているみたいでした。唯一残念なのは路上喫煙とタバコの吸い殻と犬のフンがよく落ちていることですね。日本の道の清潔さを思い知りました。

・まとめ

3週間という短い期間を無為に過ごすことがないように、色々なことに恥を忍んで挑戦することを心掛けて生活しましたが、自分の中ではそれはかなり達成されたのではないのかなと思います。フランスの文化、日本の文化の双方に良い点と悪い点があり、良い点だけを持ってくるといものなかなか難しいものではないかと思いました。(時間に対する考え方など)また、フランスの人たちはみんな優しく、もしかしたら自分がフランス語を使ってコミュニケーションをとろうとしていたからであって英語で話そうとしていたら彼らの態度も変わっていたのかもしれないのですが、感じのいい方ばかりでした。自分が何かを伝えたいときでも、出来るところまでは、フランス語を使って伝えて、どうしても伝わらないときだけ英語を使えばフランスでの生活もそこまで大きく不便を被ることなく乗り切ることが出来ると思います。

